

2019年07月09日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【今年は、まだ、「夏休み相場」に突入していない】

外国為替市場の「年間のスケジュール」を考えると、毎年、米国の独立記念日(7月4日)を契機に、夏休み相場は始まります。

つまり、米国の独立記念日(7月4日)を過ぎると、世界中の市場参加者が、順番に夏休みを取る、ということです。

しかし、今年のマーケット(外為市場)は、少し違う、と考えます。

今月(7月)のFOMCで、米国の政策金利引き下げの可能性が高いからです。

FOMCは、7月末(30日、31日)なので、それまでは、多くの市場参加者が、すぐに夏休みを取る訳にはいかない状況だろう、と考えます。

つまり、7月上旬の時点では、まだ、「夏休み相場スタート」とは言えないのでしょう。

それでも、今月は、徐々に市場参加者は少なくなっていくことでしょう。

FOMCが終わると、完全に「夏休み相場」に突入する、と考えます。

だから、今年の「夏休み相場」は、8月からだろう、と考えます。

しかしながら、今週に入っのマーケットには、どこことなく「夏休み相場」の雰囲気漂っている、と感じます。

それは、米国の独立記念日(7月4日)を過ぎたからなのでしょう。

7月末(30日、31日)のFOMCまでは、間がありますから、一息ついている、といったところなのかも知れません。

+++++

今年の「夏休み相場」が始まらないのは、米中貿易摩擦問題の行方が、不透明のままであること。

そして、7月21日(日)に参院選挙があること。

そういったイベントが残っているので、すぐに夏休みを取る訳にはいかないのだろう、と考えます。

+++++

ところで、毎年のことですが、
『「夏休み相場」は、ポジションを取らずにのんびりすれば良い』
とを考えます。

今年も同様です。

準備万端に夏休み体制が整ったならば、夏休み相場の期間は、何もしないで（ポジションを取らないで）、
休暇を取ることも、素晴らしい戦略と考えます。

+++++

ただし、私事ですが、もちろん、「夏休み相場」のシーズンでも、真摯に相場に向かい、マーケットの
動きを追いかけてコメントを書きます。

それは、「夏休み相場明けの時期」が、1年の中でも、最も重要なシーズンであり、その時期に、ベスト
な状況で相場に臨みたい、と考えるからです。

そして、当然のことですが、夏休みシーズンであっても、利益を狙える場合には、相場をやって構わな
い、とも考えるからです。

+++++

(2019年07月09日東京時間15:00記述)